



情報セキュリティ

どう守る？ どう守られている？

ITの進歩により、人と人や機器同士が簡単につながるようになった。インターネットはインフラの一つとなり、参加交流型サイト(SNS)はコミュニケーションの重要な位置を占めるまでになった。ただ、つながることで便利になった反面、事件や社会問題も起きている。しかも被害者になるだけでなく、意図せず加害者になる恐れもはらむ。企業や個人はどのように身を守れば良いのだろうか。ここでは情報セキュリティについて、現状と具体的な防衛策を見ていこう。

怪しいアプリをどう見分けるか。スマートフォンやタブレット端末(携帯型情報端末)を使う人は増えているが、その便利さを支えているのはアプリ(ソフトウェア)の存在が大きい。だが中には、便利さを装って個人情報収集するなど悪意を持ってつくられたものもある。8月末に福岡市中央区で行われた「セキュリティ・キャンプ九州in福岡」では、情報セキュリティに対する意識向上に向けた講演が行われた。

園田道夫サイバー大学教授は、アプリの中には「被害としてお金に直結するものではなく(利用者)の行動を収集することもある」と説明。役立つように見せて役に立たず、個人情報を持って行く「グレー」なソフトの存在を挙げた。また開発者の無知から、悪意なく情報収集するアプリもあると示した上で、開発者に向けて「結果として悪いアプリにならないために、企画設計段階で悪意を持つ人の視点で見る必要がある」と訴えた。利用者は「消極的だが自衛策」として、出た

「ツイッター」や「フェイスブック」などSNSを公私で利用する人は多い。だが従業員のいたずら投稿で炎上し、本人のみならず、企業もブランド失墜などダメージを受けた事例は少なくない。SNSのリスク対策に詳しい、富士通マーケティング・エンジニアの藤田和重氏に聞く。

「SNS炎上は防げる」

富士通マーケティング・エンジニア 藤田和重氏に聞く



一生を棒に振ることもある...と藤田氏

そのアプリ、安全？

セキュリティ・キャンプ九州



一般講座は情報セキュリティ意識の啓発が目的

ビジネスパーソンと安心・安全

大学院生までと、セキュリティの知識の差はさまざま。だが関心は一樣に高く、第一線で活躍する講師陣の指導に目を輝かせていた。

セキュリティ・キャンプ九州は、地場企業による九州の実施協議会のほか、全国大会を運営する実施協議会、独立行政法

最新データセンター`潜入、 西鉄情報システム

企業のシステムや私物の個人情報データは、物理的にどのように守られているのだろうか。西日本鉄道グループの西鉄情報システム(福岡市博多区)が運営する福岡市内のデータセンター(DC)を訪れてみた。

DCはサーバというコンピュータを集積する場所。企業システムなどの心臓部にあたる。西鉄が5月に始めたのは、外部のサーバを預かる「ハウジング」と呼ぶ事業。簡単に言えば設置場所を提供するサービスなのだ。その「場所」がとても大事なのだ。



免震用ゴムの上にビルが乗り、地震を減衰する

大型非常用発電機は浸水防止のため、屋上に設置している。

格に区分し、リスクを極力避ける構造になっている。ドアごとにICカードによる解錠が必要で、権限のないカードでは開かない上、警備担当者にすぐに通報される。サーバが置かれる最奥部の部屋は最高のセキュリティレベル。1人と見せかけて入室権限がある人しか付いて入る。共通レールを防ぐため、センサで認識して1人ずつしか入れない仕組みだ。

さらに災害時にシステムを維持するための防災対策も重要な要素。西鉄が運営するDCは免震ビル内に設置されており、DCとしては九州で2カ所しかない。ビル自体がゴムのクッションに乗った状態で、震度7を震度2-3程度に減衰する。電力は2カ所の変電所から受電しており、いずれかが稼働しなくても安定的に電力確保できる。無停電電源装置や自家発電装置も備えている。

福岡は地震が少なく、リスク分散と同時に、交通など生活インフラの利便性が高い土地として注目されている。西鉄はその地理性と自社DCのセキュリティの高さ、本社が交通事業を運営している安心安全のブランドを強みに利用者拡大を目指している。

ネットは匿名? 本人特定の仕組み

「企業はどう防げるのか」というのが、このような被害が出るか教育すれば、やることする人はいない。若い人は物心ついた時からネットがあり、怖さを感じない。悪意はなくとも一対一のコミュニケーションと錯覚してしまつのが危険だ。ただ、社員や従業員をSNS利用を禁じることは表現の自由の面からできない。踏み込んだ教育が必要に

「ソーシャルメディアポリシー」の内容例

- 機密情報の流出防止
- 一個人の意見であることの明示

業務で知り得た情報が「公知の情報」である場合以外は「機密情報」に該当すると考えてください。

「機密情報」は会社の事前の許可なくSNS上に書き込んではいけません。

「ここに記載されている内容のすべては私一個人の意見であり、○○社(または勤務先)の見解とは無関係です。」

藤田氏コンサル資料から抜粋

「ソーシャルメディアポリシー」といったルールで線引きすべきだ。企業側が勉強して、地域の学校で教えることをしている。若い人は物心ついた時からネットがあり、怖さを感じない。悪意はなくとも一対一のコミュニケーションと錯覚してしまつのが危険だ。ただ、社員や従業員をSNS利用を禁じることは表現の自由の面からできない。踏み込んだ教育が必要に

営業担当者、新任担当者 必見のセミナーです!!

図面って、どない読むねん!

図面を、設計意図を読み取るテクニック

日時 2014年(平成26年) 10月31日(金) 10:00~17:00

会場 日刊工業新聞社 西部支社セミナー会場(福岡市博多区古門戸町1-1)

受講対象 図面を描く上での専門用語を知らない「図面を読む立場の人」や、これから図面を描こうという「本当のピクナー」の方など。特に、秋の人事異動で図面を読み解く力が急遽、求められる方の参加をオススメします。

参加のすすめ

昨年度開催し、大好評だったセミナーを再び開催します。図面には投影図に加え、寸法線や専門用語で書かれた注記や各種製図の作法に即した記号などがちりばめられており、製図の知識がない人には「難解な暗号」のように見えるかもしれません。しかし、図面に描かれた情報は、言語や文化の異なる人たちにも正確に伝わるよう、世界共通の伝達手段として、設計者の意思が投影図や文字・記号として表現されたものです。そして、モノづくりに携わる、あらゆる立場の人たちが図面を読み解くことで、設計意図を正しく反映した製品ができます。オーケストラ団員が譜面を読み取り、美しい旋律を奏でるのと同じであり、設計者ではないからといって、基本的な形状の名称や専門用語、製図で使う記号や注記の意味がわからないようでは、正しいモノづくりができません。

本講座では、生産技術や生産管理部門の方はもちろん、客先と打ち合わせをする営業部門の方に向け、図面によく用いられる用語や投影図、各種記号を解説します。形状を的確に理解し、第三者に伝える能力を身につけるための一歩としてお役立て下さい。

受講料: 43,200円(テキスト代、昼食代、消費税込み)
※同一会社の複数名のご参加の場合、2人目より10%割引致します(38,880円)。

主催: 日刊工業新聞社

※お申し込みいただいた方へは、後日、振込先など詳細をご連絡致します。
※お申し込み人数が5名以下の場合は、中止させていただく場合があります。 ※申し込み締切日=10月17日(金)
※セミナーの詳細は、<http://www.nikkan.co.jp/edu/semi/top.html> からご覧いただけます。

大好評セミナーが福岡に帰ってくる!

講師 (株)ラブノーツ/六自由度技術士事務所 代表取締役 技術士(機械部門) **山田 学氏**

略歴 1963年兵庫県生まれ。カヤバ工業(現KYB)(株)自動車技術研究所にて、電動パワーステアリングとその応用製品(電動後輪操舵E-HICASなど)の研究開発に従事。グローリー工業(現グローリー)(株)設計部に銀行向け紙幣処理機の設計や、設計の立場で海外展開製品における品質保証活動に従事。2006年4月に独立し、機械製図や機械系国家資格受験の指導、および執筆活動を行っている。主な著書に「図面って、どない描くねん!」「図面って、どない描くねん!LEVEL2」「図解力・設計力おちゃのこさいさい」(いずれも日刊工業新聞社)など。なお、機械技術者のための情報サイト「Lab notes by 六自由度」は、<http://www.labnotes.jp>

プログラム

- 図面の基本を知らなければ会話もできない!
 - 業務の中の図面の役割
一般的の製造業における業務の流れと図面の役割
 - 実力診断テスト
〇×クイズによる現状知識の確認
 - 図面要素
図面にはどんなものが描かれているのかを知ろう
- 図面を見て形状がイメージできる、これが第一歩
 - 「投影法」…立体を平面上(図面)に表す方法を知る
 - 一般的な投影法「第三角法」で描かれた形状を読み取る
ミニ演習 サイコロを使って、第三角法を習得する
 - 脳を使ってイメージするトレーニング
演習 フリーハンドによる立体図-平面図の作成
(図解力の向上)
- 図形をより具体的に類推するための情報を読み取る
 - 形状を表す寸法補助記号
ゆって? Rって? Cって? つって?
 - 図面に必須の特殊記号
Mって? キリって? H7って?
 - 図形以外の情報がヒントになる
用紙サイズと尺度、部品名称、材質
演習 寸法で表された部位を探る
(寸法がどの形状を表現しているのかを理解する)
演習 寸法に關係する記号を反復練習
(記号の意味を理解する)
- まとめ
 - 実力確認テストII
〇×クイズによる現状知識の確認
 - 質疑応答
※講義テキストには、「図面って、どない読むねん!LEVEL00」を併用します(受講料に含まれます)。

【申込方法】下記の必要事項をご記入の上、FAXまたはE-mailにてお申込みください。
①氏名(フリガナ) ②会社名 ③部署名 ④役職 ⑤住所 ⑥電話番号 ⑦FAX番号 ⑧E-mailアドレス

【お問い合わせ先】 日刊工業新聞社 西部支社 業務部

電話 092-271-5711 FAX 092-271-5881 E-mail kouen@media.nikkan.co.jp

(個人情報の取扱いについて)お申し込みいただいたお客様の個人情報は、日刊工業新聞社および関連会社が適切に管理し、お客様への確認、日刊工業新聞社からの展示会・セミナー等の案内をお送りさせていただくために利用させていただきます。